



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



杉並ユネスコ協会



第11回韓国スタディツアー 報告書 2017

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2017年度
青少年ユネスコ活動助成事業

目次

はじめに.....	2
ツアーの概要.....	3
西大門刑務所歴史館.....	5
脱北者とのDMZ ツアー.....	6
昌徳宮.....	8
日韓青少年交流.....	10
ツアー報告会.....	12
参加者の感想.....	14
あとがき.....	24

主催 杉並ユネスコ協会

韓国スタディツアーの目的

杉並ユネスコ協会では、異文化理解を通じた国際平和の実現を目指すにあたり、隣国である韓国の歴史・文化を学び将来の日韓友好を築くため、青年主体の韓国スタディツアーを実施しています。同ツアーは2006年に始まり、毎年8月あるいは12月に行われ、今回で11回目を迎えました。

日本にとって韓国はしばしば「近くて遠い国」と言われます。飛行機でたった2時間の距離にありながら、両国の間で歴史認識や領土をめぐる意見の隔たりがあり、それが市民間の交流にも影を落としているのです。

そこで本ツアーでは、「韓国の歴史・文化を学び、将来の日韓友好について考える」という目的を設定し、青年が自分の目で韓国を見て、そこから日韓友好のあり方を模索する機会をつくることにし

ました。さらに、現地で学んだことを周囲に伝えることで、日本人の韓国に対する見方を変え、日韓の市民交流をさらに活発化させることを目指しています。

青年が現地で韓国の歴史・文化を学ぶにあたり、「平和学習」と「異文化理解」の2つのテーマを設けています。「平和学習」とは加害者としての日本を知ることと、南北朝鮮の分断の歴史と現状を知ること。「異文化理解」とは韓国の文化や韓国人の価値観について知ることを指します。これら2つのテーマに沿って訪問先が決められ、効果的な学びが得られるように計画されています。本ツアーを通じて青年たちが国際的な感覚を身につけ、将来のリーダーとして活躍できるように、必要なスキルを高めることも目的の1つとなっています。

本報告書の内容

本報告書では、まずツアーの概要について説明したのち、ツアーで訪問した施設や訪問先で行われたイベントを紹介しています。訪問先としては、「平和学習」の観点から、西大門刑務所歴史館および脱北者との非武装地帯（Demilitarized Zone: DMZ）ツアー。「異文化理解の」観点から、世界遺産である昌徳宮および韓国人青年との交流会（日韓青少年交流）があります。

西大門刑務所歴史館は、20世紀前半の日本による韓国支配の歴史が当時の遺構とともに展示されている施設であり、「加害者」としての日本を知ることができます。脱北者とのDMZツアーは、38度線上のDMZとかつて北朝鮮軍がソウル侵攻のため造成した「第3トンネル」を脱北者とともに見学するバスツアーで、朝鮮戦争の爪痕を見ることができます。昌徳宮は、15～17世紀の朝鮮王朝

の王宮であり、1997年にユネスコの世界文化遺産に登録された歴史的建造物です。建物の随所に韓国の伝統文化を見出すことができます。日韓青少年交流は、ソウル郊外のユースセンターで行われた日韓の青年同士の交流会です。韓国の文化芸術体験を一緒に楽しんだり、互いにパフォーマンスを披露し合ったりして、友情を深めました。

次に、帰国後に開催された中学生を対象とする報告会の様子が紹介されています。そして最後に、ツアーを通じて感じたこと、考えたことなどについて、参加者の感想が1人ずつ掲載されています。

読者の方々には、本報告書を通じて韓国に興味を持っていただき、同国の歴史・文化に関する理解を深めていただくとともに、日韓の文化交流を促進しようとする当協会の取り組みに関心を寄せただけであれば幸いです。（岩野 智）

ツアーの概要

滞在先	大韓民国 ソウル特別市
期 間	2017年12月26日(火)～29日(金)
宿泊先	センターマークホテル (CenterMark Hotel) ソウル特別市鍾路区仁寺洞5街38

参加者		
青年 (青年部)	青年 (外部)	大人 (理事)
小林 穂菜美	鈴木 綾菜	板倉 徳枝
廣瀬 数寿	西野 星	西野 裕代
井口 大夢	飯塚 萌	
金野 歩南	川端 ノエル	
福山 蒔乃	西野 月	

行 程			
12月26日(火)	12月27日(水)	12月28日(木)	12月29日(金)
6:40 羽田空港集合	8:40 コリアナホテル着	9:50 盆唐板橋ユースセンター着	9:20～10:00 昌徳宮
8:40～11:50 アジアナ航空 OZ1055 便	9:00～16:50 脱北者とのDMZツアー	10:00～12:30 韓国人青年との文化芸術体験①	10:20～11:40 西大門刑務所歴史館
12:20 金浦空港発	・烏頭山統一展望台	12:30～13:30 昼食(盆唐板橋ユースセンターの接待)	12:30～13:20 昼食
14:20 ホテル着	・第3トンネル	14:00～18:30 韓国人青年との文化芸術体験②	13:40～14:30 Nソウルタワー
守門軍交代儀式・貞洞展望台見学	・都羅展望台	18:30～20:30 夕食(盆唐板橋ユースセンターの接待)	15:30～16:30 ソウル駅など散策
17:00 韓国ユネスコ協会連盟(ユネスコビル)訪問	・臨津閣公園	20:30 盆唐板橋ユースセンター発	16:50 ホテル発
18:00～19:30 夕食(盆唐板橋ユースセンターの接待)	・都羅山駅		18:00 金浦空港着
20:00～20:30 ミーティング	17:00～19:00 明洞散策		19:35～21:45 アジアナ航空 OZ1065 便
	20:00～21:30 東大門市場で夕食		22:00 羽田空港にて解散
	22:00～22:30 ミーティング		

ツアーの概要

決算<支出>		
支出項目	支出内訳 (単価×個数) *	金額
謝金	韓国ユネスコ協会連盟への土産 (菓子) ¥3,750×1+¥2,419×1 韓国人青年への土産 (菓子・袋) ¥2,652×1+¥540×1 韓国人青年への土産 (民芸品・袋) ¥4,158×1+¥2,160×1 ユースセンターへのお礼 (写真・ファイル) ¥682×1+¥1,555×1	¥17,916
旅費	航空券 ¥552,120×1 (12名分) ホテル ¥157,860×1 (12名分) DMZ バスツアー ¥98,400×1 (12名分)	¥808,380
印刷製本費	ツアー参加者募集チラシ ¥1,330×1 報告会参加者募集チラシ ¥1,830×1 ツアー報告書印刷・製本 ¥30,450×1	¥33,610
通信運搬費	Wi-Fi レンタル ¥3,264×1 韓国ユネスコ協会連盟への電話連絡 ₩1,750×1	¥3,457
消耗品費	コピー用紙・インク ¥525×1+¥7,190×1-¥65 (割引) 洋紙・筆ペン ¥13×1+¥172×1	¥7,835
雑費	拝観料：昌徳宮 ₩28,800×1 (12名分) 西大門刑務所歴史館 ₩33,000×1 (12名分) N ソウルタワー ¥11,570×1 (12名分) 交通費：地下鉄 ₩192,500×1 (12名分、4日間合計) タクシー ₩27,600×1 (12名分、4日間合計) ケーブルカー ₩72,000×1 (12名分) 食費 ₩1,322,900×1 (12名分、4日間合計)	¥196,018
合計		¥1,067,216

*為替レートは1ウォン=0.11円 (当時) として計算。

決算<収入>		
収入項目	内訳	金額
自己資金	会費等	¥27,216
参加費収入	¥65,000×8名 (青年のうち学生) ¥75,000×2名 (青年のうち社会人) ¥85,000×2名 (理事)	¥840,000
青少年ユネスコ活動助成金	¥200,000×1	¥200,000
合計		¥1,067,216

西大門刑務所歴史館

西大門刑務所歴史館は、1908年に京城監獄、1912年に西大門監獄、1923年に西大門刑務所、それから何度か名前を変えていき、現在は、西大門刑務所歴史館となっている。この場所は、1988年2月27日に国家史跡指定とされ、2007年10月18日国家顕忠施設指定とされている。

西大門刑務所は、日本統治時代、韓国人の独立運動家たち、また解放以降にも民主化を成そうとした民主化運動家を投獄した場所である。現在は歴史館となっており、韓国の小学生たちなどの社会科見学だけでなく、若いカップルたちも多く見受けられた。

ここでは展示館、中央舎、獄舎、工作舎、死刑場、炊事場などが見学可能である。

展示館1階には、刑務所の歴史などがパネルなどでまとめられており、当時のものなども展示されている。映像室もあった。

展示館2階には民族の抵抗、独立運動がテーマとなっており、独立運動の軌跡が展示されている。そのなかでも一番印象的であったものは、独立運動家受刑記録表が飾られている部屋である。ここには、独立運動をおこし、投獄されていた人物の写真が壁一面に飾られている。その数は、現在約5000枚以上あるとされている。当時、朝鮮の人々が猛烈に抗っていたことが、容易に感じ取れる場所であった。

展示館地下には、拷問室が再現されている。模型を用い、実際に行われていたことが再現されており、また実際に拷問道具の中に入ったり、手錠をつけてみることもできた。



中央舎は第10、11、12獄舎と繋がり獄舎全体を監視し統制するために作られたものである。1階は看守の事務空間。ここを使い獄舎に出入りした。2階は全体を講堂にし、収監者の教会堂、つまり転向教育の場所として利用した。囚人の衣食住にかかわるものなども展示されていた。

そして終盤には死刑場を見て回った。裁判がその場で行われ、判決が下されると、すぐ後ろで刑が執行されるというシステム。ここでは、それ以上に印象的なものがひとつあった。死刑場を囲む壁の内側と外側に一本ずつポプラの木が植えてある。ほぼ同時期に植えてあるようだ。しかし壁の内側に生えているポプラは明らかにやせ細っており、逆に外側の木は、たくましく育っているのである。これは「慟哭のポプラ」といわれており、たくさんの死刑囚が、泣いてしがみついていたので、その無念や怨念を木が吸ってしまい、成長できなかったのではないかとされている。

西大門刑務所歴史館を見て回った感想は、あまり日本人の私たちにとって気分



のいいものではなかった。やはり韓国側の目線で歴史が語られているというものもあるが、実際に本物を見ることにより、学校では習えないもの、事実を学ぶことができることで、私たちの考えていた以上のことが行われていたと認識させられたからである。しかしこの事実から目を背けてはいけけないので、しっかり受け入れていきたい。(井口 大夢、廣瀬 数寿)

脱北者とのDMZ ツアー

ツアー2日目(12月27日)に、「脱北者とのDMZ ツアー」に参加し、脱北者のキムさんと共に、烏頭山統一展望台、臨津閣、都羅展望台、DMZ、第3トンネル、都羅山駅を訪れました。

烏頭山(オドゥサン)統一展望台

烏頭山統一展望台は川の対岸から北朝鮮を見ることができます。また韓国と北朝鮮の歴史が展示されている建物があり、私たちはそこで脱北者のキムさんからお話を聞きました。

右の写真の川の向こうが北朝鮮です。写真の中央で川が分かれていて、奥に流れるのは北朝鮮の川になります。



左の写真に写っているのは、望遠鏡を通して見た北朝鮮の村です。この村ができた当初は、人の姿が見えなかったため、見せかけの町だといわれていました。

それを聞き北朝鮮は、この村に人を住まわせるようになり、現在では人の姿を確認することができます。また、白い建物のうちいくつかは屋根もなく、私たちにとても良い暮らしをしているようには見えませんが、北朝鮮にとっては韓国に良い暮らしをしていることを自慢するための村だそうです。

展望台で私たちが、キムさんからお話を聞いて特に印象に残った話は洗脳教育、恐怖政治、北朝鮮に残した家族のことです。



洗脳教育は生まれた時から始まります。金日成は神だと教えられ、毎朝家に飾ってある金日成の写真に挨拶するところから一日が始まるそうです。金日成が亡



くなった時には、本気でこの世が終わってしまうと思います、嘆き悲しんだそうです。

恐怖政治は、政府に逆らったり反抗すると、その人やその家族までもを拷問したり殺したりして、人々を恐怖によって従わせる政治のことです。

このような洗脳教育や恐怖政治によって、北朝鮮は人々をコントロールしているとのことでした。

北朝鮮に残した家族とは連絡が取れないと思われがちですが、中国にいるブローカーを通して仕送りや電話をすることができます。例えば、北朝鮮の家族に50万円の仕送りをしたい場合は、その倍の100万円をブローカーに渡します。半分はブローカーに手数料として取られますが、仕送りができるそうです。

臨津閣(イムジンガク)



左の写真は望郷の歌碑と言います。韓国と北朝鮮が分断された時に家族と別れてしまった人たちのために、約138時間の生放送のテレビ番組を通して、1万人以上の家族が再会したことを記念するものです。また、このことはギネス

世界記録にも登録されました。

右の写真の列車は、朝鮮戦争の時に韓国から北朝鮮に向かって運行していました。当時、北朝鮮が列車に向かって発砲したため、今も列車にその銃弾の跡が残っています。



脱北者との DMZ ツアー

下の写真の橋は、北朝鮮が拘束していた人を解放し、その人たちが自由になったことから、「自由の橋」と名付けられました。



都羅（トラ）展望台

都羅展望台は北朝鮮に一番近い展望台です。北朝鮮を間近で見ることができます。

下の写真で、左の赤い丸で囲ってある部分は北朝鮮の旗、右の白い丸で囲ってある部分は韓国の旗です。その二つの旗の真ん中に 38 度線があります。韓国の旗が先に立てられ、その後それに対抗するように、北朝鮮が韓国の旗よりも高い位置に旗を設置しました。



DMZ (Demilitarized Zone)

DMZ とは非武装中立地帯のことで、38 度線を境に南と北に 2 km ずつ設けられています。この地帯では二勢力間の軍事衝突を避けるために、互いに武器を持ち込むことや使用することは禁止されています。

DMZ には人が住んでいないと思われがちですが、実際には民家が並び、町があります。この町に住むと、韓国の男子に課せられる兵役が免除されるなど、さまざまな面で優遇されます。



第3 トンネル

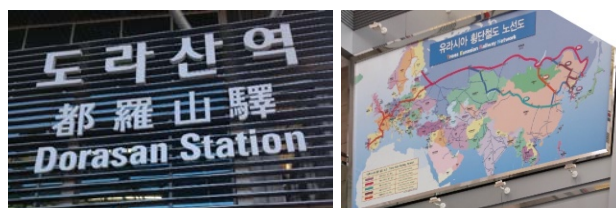
第3 トンネルは 1978 年 10 月 17 日に発見されました。北朝鮮が韓国を攻めるために掘ったトンネルとされ、ソウルに向かって伸びています。全長約 52 km のこのトンネルは、第1から第4までであるトンネルの中で唯一武器を運ぶことができます。またソウルまで一番近く掘られているトンネルです。



発見されている 4 つのトンネル以外にも、ソウルに向かって無数にトンネルがあると言われています。それらのトンネルは、北朝鮮がソウルに奇襲戦をしかけるために掘ったとされていますが、北朝鮮はこの事実を一切認めていません。

都羅山（トラサン）駅

都羅山駅は、北朝鮮と韓国が統一したときに開通する予定であった大陸横断鉄道の駅です。右下の写真は大陸横断鉄道の路線図です。この路線図には、韓国から北朝鮮を抜けて、ロシアやモンゴルを通りヨーロッパにつながる路線が書かれています。



この「脱北者との DMZ ツアー」で、私たちはたくさんの方を経験し、学ぶことができました。このツアーに参加しなければ、本当の韓国と北朝鮮の関係や歴史を知ることはなかったので、このツアーに参加できて良かったです。脱北者のキムさんをはじめ、このツアーで関わった方々に感謝いたします。今後はこのツアーで学んだことをたくさん人に伝え、日本人が持っている韓国と北朝鮮の関係に対する認識を変えていきたいと思っています。(川端 ノエル、金野 歩南)

昌徳宮

大造殿 (テジョジョン)

王と王妃の寝室にあたり、王とその家族が暮らしていた中宮殿でもある。この建物の特徴は屋根に棟瓦がなく、「龍棟」と呼ばれる瓦が使用されていることである。韓国では国王は龍に例えられていたため、「龍棟」が使用されていた。内部の寝室周辺には、王と王妃を守る女官が使っていた小さな部屋がある。



楽善齋 (ナクソンジェ)

朝鮮王朝第 24 代国王の側室であった金氏が住む場所として建てられた。楽善齋には不老草をモチーフにした屋根や、亀をモデルにした壁がある。不老草も亀も、長寿を意味するものである。



これらの昌徳宮の建物の屋根には、「雑像」という瓦飾りがあり、西遊記の登場人物の石像が置かれ、先頭から和尚様、孫悟空、猪八戒と並んでいる（下写真）。これは宮殿を悪いものから守るためだとされている。また、昌徳宮には「オンドル」と呼ばれる暖房がある。「オンドル」とは、二層になった床下に薪を燃やして温めたお湯を通し、部屋全体を温める床暖房のようなものである。薪を燃やして出てくる煙は、敷地の端にある煙突を通して出て行くようになっていた。



1405 年というと、日本は室町幕府が栄えていた頃であり、この頃の日本の宮殿と昌徳宮は似ているつくりをしていると感じた。しかしよく見てみると、日本の歴史的建造物には見られない色使いや建築様式があり、韓国の歴史を感じることができた。道なども広く、1つ1つの建物が壮大で、歴史の重みに圧倒された。日本ではあまり見かけない精巧で立派なつくりをしていて、見ていてとても面白かった。また敷地がとても広く、まさに自然と調和していて、敷地の中を歩いているだけで朝鮮王朝時代の雰囲気を感じることができた。

一番印象に残ったのは敦化門であり、大きくて綺麗な色合いの正門は圧巻であった。一見日本と似ているように見えても、細部まで見ると屋根の形や模様など、日本とは全く違う韓国の歴史や独特の文化を見ることができ、良い経験ができた。韓国について理解を深めることができたと思う。(福山 蒔乃、飯塚 萌)

日韓青少年交流

ツアー3日目(12月28日)に、今回の重要な目的でもあった「韓国の学生との交流」を行いました。韓国ユネスコ協会連盟を通じて私たちを招いてくださったのは、ソウルから車で30分程度の距離にあるブンダン・パンギョ・ユースセンターの方々です。

ブンダン・パンギョの紹介

ソウル市内から車で30分程度の、ブンダン(盆唐)という地区にパンギョ(板橋)という新興都市があります。近年、韓国政府はソウル首都機能の分散を図っていますが、その一環で、パンギョはIT関連など最先端技術の研究機関の拠点として急成長を遂げています。富裕層のファミリーやビジネスマンが多く住み、路肩には高級外国車がずらりと並んでいました。日本でいえば青山や表参道にありそうなおしゃれなカフェもたくさんあり、街全体がハリウッドの映画セットのような、とても素敵な雰囲気です。その街の一角に、今回の会場となったブンダン・パンギョ・ユースセンターがありました。



交流会・文化芸術体験

今回、私たち日本側と韓国側では共通の目的がありました。キーワードは「MAKE FRIENDS」。丸一日、一緒に活動する中でお互いを知って親しい友達になることです。

活動日はツアーの3日目に予定されていましたが、韓国に到着した日の夜から食事に招待いただき、私たちの滞在を通して手厚い歓迎を受けました。通訳についてくれた韓国人の大学生は日本の同志社大学に留学している方で、また、参加した韓国の高校生たちは日本語を勉強していたので、コミュニケーションをとるために苦労もなく、すぐに仲良くなりました。

交流会当日の朝、センターの方が用意してくれた大型バスに乗って会場へ向かうと、会場入口にはレッドカーペットが敷かれ、大勢の人たちが花道をつくり、拍手で出迎えてくれました。

早速始まったオリエンテーションでは、一人ひとり自己紹介をし、日本の歌「ふるさと」をプレゼントしたり、相手の印象を付箋に書いて背中に貼り付けるゲームをしているうちに、互いに緊張もとけていきました。



日韓青少年交流

次に会場を移動し、韓国の青年と一緒に3つの文化芸術体験をしました。

①布工芸体験

ソウルの有名デパートに商品を置いているという素敵なクラフト工房で、キーホルダーを作りました。これは、「ハンボク」という韓国の伝統的な服装につける「ノリゲ」というものを現代風にアレンジしたものです。ノリゲは、母親が子供に作ってくれるもので、悪い気を追い払うお守りのようなものだそうです。



②花冠作り体験

お花屋さんへ移動して、フレッシュフラワーで花冠を作りました。結婚式でお嫁さんがつけるそうです。作った冠は、日本に持ち帰り、ドライフラワーにして飾っています。



③クッキーアイシング

韓流ドラマに出てきそうなケーキ屋さんでは、クッキーのアイシングに挑戦しました。



ユースセンターに戻り、とても楽しかった1日に感謝の意を込めて、私たちから歌やダンス、南京玉すだれなどを披露し、最後は全員舞台上に上がって、日韓合同の三代目 J soul Brothers ダンスで盛り上がりました。



今回、韓国のみなさんが用意してくれた盛りだくさんのプログラムと一緒に過ごす中で、日本の学生とは異なるとても過酷な勉強環境や、徴兵制度を受け入れなければならない環境下での本音、さらには親世代とは異なる日本への思いも聞きました。100%共感できる意見を聞いて、私たちの距離がぐっと近づいたのは確かです。改めて、お互いのことを知ろうとすることは大切だと実感しましたが、もはや私たちは数時間の内に国籍など忘れていたほど親しくなっていたことは、今回のスタディツアーの中で最大の収穫といえるでしょう。なぜならば、「世界は私たちの外交で繋がりが合える！」と確信できたからです。世界は分断の時代だとよく耳にしますが、例え国同士が良好な関係でなくとも、私たちは違った側面から友好関係を築くことができるのです。外交は国だけが行うものではない。そして、私たち自身はいろいろな機会を活用して、民間外交の輪を広げていかなければと思いました。

(西野 星、鈴木 綾菜、西野 月)

ツアー報告会

2018年1月13日(土)の15時30分～16時30分に、東京都杉並区のセンオン杉並にてツアー報告会を開催しました。参加者は中学生24名、高校生6名、大学生2名、大人12名の計44名でした。

報告会の内容

まず、韓国スタディツアーの概要について説明し、次に訪問先の紹介を昌徳宮、西大門刑務所歴史館、脱北者とのDMZツアー、日韓青少年交流の順番に行いました。そして最後に報告のまとめを行い、参加者にアンケートを記入してもらいました。

昌徳宮の報告(飯塚・福山担当)では、15世紀初頭に李氏朝鮮の王宮として建てられた昌徳宮が、その歴史的価値と美しい景観から1997年に世界文化遺産に登録されるまでの経緯が説明されました。また、昌徳宮の入口から正殿に至るエリアを中心に、色とりどりの装飾が施された建物や動物をかたどった石像、縁起を担いだ模様などが紹介されました。報告者からは、一見日本と似た建物のように見えるが、よく見ると建築様式や色合いに違いのあることがわかり、何よりも自然と建物の調和が素晴らしかったと、感想が述べられました。



西大門刑務所歴史館の報告(井口担当)では、まず同刑務所が日本統治時代に建設され、韓国独立後も民主化運動を抑えるために使用されたという歴史的経緯が説明されました。次に刑務所内の施設として、当時の収容状況をわかりやすく示している展示館や、復元された獄舎・死刑所などが映像を交えて紹介されました。報告者からは、韓国側の視点で歴史が語られており正直気持ちの良いものではないものの、日本人としてこの歴史的事実をしっかり受け止め、そのうえで韓国人の立場を理解していく必要があるとの指摘がなされました。



脱北者とのDMZツアーの報告(川端・金野担当)では、38度線付近の非武装地帯(DMZ)を脱北者とともに訪れた様子が紹介されました。まずDMZの地理的説明があり、その場所から見える北朝鮮の様子が述べられました。次に脱北者の体験談が紹介されました。北朝鮮の教育が「洗脳教育」であること、反対派を抑圧する「恐怖政治」が行われていること、そして北朝鮮に残してきた家族には中国人ブローカーを通じて仕送りをしているといった話が紹介されました。報告者からは、衝撃を受ける話もあり貴重な体験であった、また韓国人の中にも南北朝鮮の統一を望む人がいることがわかり、日本で報道されていない部分を知ることができたとの感想が述べられました。

日韓青少年交流の報告(西野星・鈴木・西野月担当)では、ソウル郊外のユースセンターで行われた韓国人青年たちとの交流プログラムの様子が紹介されました。まずツアー初日の歓迎晩餐会の話があり、次に3日目の交流会(歓迎セレモニーや文化芸術体験)の内容が説明されました。セレモニーの説明では、日本人メンバーから歌(ふるさと)、ダンス、南京玉すだれが披露され、そしてJ-POPのダンスを一緒に踊った様子などが、映像とともに紹介されました。報告者からは、国籍を意識せずに互いに友達になることができたとの感想が述べられ、国家間の外交だけではなく「私たち」による民間外交も重要であることが強調されました。

最後のまとめ(小林担当)では、南北朝鮮における民族の分断や、韓国の文化と日本の文化の違いなど、韓国の歴史・文化から学ぶことは多くあり、それらをふまえたうえで、将来の日韓友好を一緒に考えていきたいとのメッセージが伝えられました。(岩野 智)

ツアー報告会

参加者の感想（アンケートより）

1. 一番印象に残った報告は何ですか。その理由も教えてください。	
報告	理由
昌徳宮	・機会がない時代に、あんなに立派な建物をつくったのはすごいと思った。
西大門刑務所歴史館	・数年前まで、このような刑務所が使われていたことにおどろいた。 ・日本が残酷なことをやってきたというのが、すごくいろいろな展示物に表れていると思いました。
脱北者とのDMZ ツアー	・脱北者の方のお話はとても興味深かったです。最近ニュースで見かけるので、聞くことができよかったです。 ・「洗脳教育」や「恐怖政治」などから北朝鮮のこわさが分かった。また、韓国と北朝鮮の間で今も緊迫した空気が流れていることが印象に残った。 ・脱北者の生の声が聞けて、非常にめずらしい話が聞けました。洗脳教育の怖さが伝わってきて、もっと他の人にも脱北者の声を聞いてほしいと思います。
日韓青少年交流	・言葉が通じなくても仲良くなれるということは、とても大切だと思った。 ・若者たちで仲良くしていくことが、未来のためにも平和のためにも重要だと思った。

2. 韓国について新しく知ったことや、疑問に思ったことはありますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の昌徳宮の建物について知らなかったけれど、一見日本の建物と似ているけれど、色や作りが違ったりするというのがおもしろいなと思いました。日本と韓国は近いけれど、こんなに文化が違うんだと知りました。 ・韓国側の主張を聞くことはあまりないので、日本側の立場で日韓関係を考えがちだが、今日のプレゼンを聞いて、日本も大きな被害を与えていたので反省しなければいけないのだと思った。 ・北朝鮮と（韓国は）元は一つの国だったのに、何でここまでバラバラになってしまったのかなと思った。 ・脱北者の家族への資金援助に中国人ブローカーがかかわっている話は大変興味深かった。脱北者の脱北方法や現在の生活についてもっと知りたかった。 ・韓国と北朝鮮、そして日本の歴史から今の関係性まで、ツアーを通して深く触れられるのだなと思いました。「韓国の人々が北朝鮮の人々と仲良くなりたいと考えている」ということに驚きました。 ・韓国の人々は日本や他の国のことをどう思っていて、（その国との関係を）どうしたいのか知りたい ・北朝鮮や韓国の人と聞くと近寄りたがいイメージがありましたが、交流のお話を聞いて、そうではないと分かりました。

3. 将来の日韓友好のために何が必要だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・韓国について知って、韓国人の気持ち、考えを理解することが必要だと思う。 ・まず韓国のことを日本人である私たちが知り、考えることが大切だと思います。戦争をおこさないことはもちろんのことですが、無責任になってはいけないと感じました。 ・日本が韓国にしてきたことから目をそむけずに向き合い、対話をしていくことが必要だと思います。また、韓国が抱えている問題を日本と一緒に考えていくことが大切だとも思います。 ・お互いの文化などを分かち合ったり、知ることが、まず一番大切だと思います。 ・日本や韓国の人々が、互いにそれぞれの国について知ることが必要だと思う。実際にそれぞれの国に行ってみることも大切だと思う。 ・（韓国訪問の）次は、逆に韓国の人に日本に来てもらい、おもてなしをする。 ・日本と韓国の間でもっと交換留学をしたりする。 ・将来的に仲良くなるために、今から若い世代の交流をたくさんとっていくことが大切だと思う。 ・政府やメディアを通すと、情報はどうしてもゆがめられてしまう。その背景として目に見えない力が働くからである。民間の交流こそが打開策になる。